



大崎農業改良普及センター 水田生産者向けスマート農業かわら版



第二版 ～「ほ場登録」・「作付計画」～



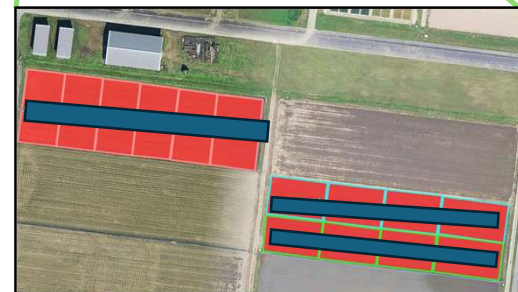
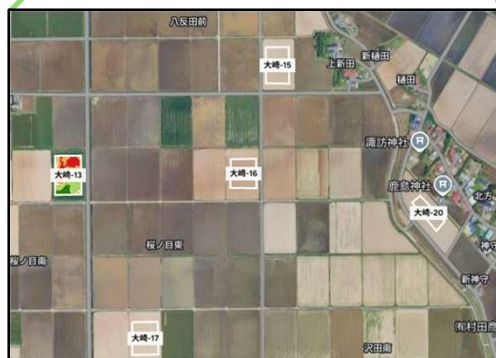
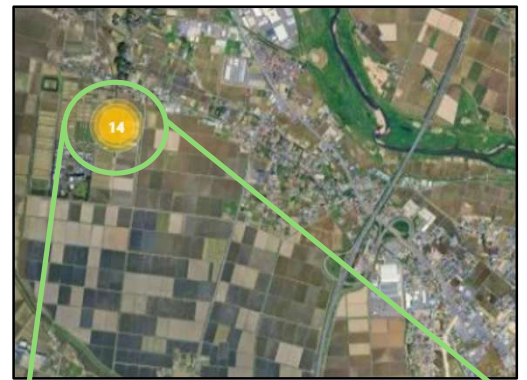
今回は営農管理システムの「ほ場登録」と「作付計画」について説明するよ！

新たな農地が集積されたり、自分以外の人が農作業をするときにはほ場の場所で迷ったり、所在地が分からなかったりしたことはないかい？

その経験は何回もあるぞ！口頭で伝えるのは難しいし、かといって毎回ほ場に一緒に行くのも大変だし時間もかかるんだよねあ…
『ここから東に真っ直ぐ行って突き当りの農道の西から2枚目』とか私以外わからないよねあ…
雇用を考えた時や、後継者に伝えるときとか問題になりそうだ！



そんな時に便利なのが「ほ場登録」機能だよ！
登録を済ませると一目で確認できるんだ！



アグリノート®

Xarvio® FIELD MANAGER

KSAS
(ほ場名は伏せたもの)

ほ場の名前を自由に変更できたり、作付品目に応じてほ場の色を変更できるから一目でわかるね！それに、他の作業員も同じ営農管理システムを見れるようにすればみんなで共有が可能だね！





ほ場登録は無事できたんだけど、ほかに活用できるのかな？
最近は色々な品種を作付することが多くて、それぞれの管理や栽培計画を立てたり、農薬や肥料、資材の管理がなかなか大変なんだよ…

それは大変だあ！でもその問題は現在だけじゃなくて今後も発生してくる問題だよな！
そんな問題は「作付計画」で解決できるよ！



作付計画の作成

① 「作付」タブから選択する

作付

作目別 グループ別 年別

Q 作付の検索

- 小麦
- 水稲
- 大豆
- 2027
- 2026
- すべて
- その他
- すべて

作付名 大豆

作目 だいず 今回「だいず」

グループ

作付の色

地図 航空写真

大豆①

合計 大豆① 92.45a

品種：タンレイ

登録したほ場に作付情報を紐づけする

品種や栽培方法ごとに1つ「ひな形」を作っておくと流用が効いて便利！

収穫・出荷の計画を作成する
使用農薬・肥料・資材を登録する

②

作付計画

他の作付の設定をコピーする

作業期間 指定なし 2025/05/31 ~ 2027/11/30

作業項目 +選択 生育イベント +選択 全ての時期を変更

作業項目	2026年	2027年	予定作業時間									
生育イベント	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月		
耕起												2 時間 / 10a
土づくり												2 時間 / 10a
排水対策 (…)												2 時間 / 10a
播種												2 時間 / 10a
初期防除												2 時間 / 10a
中耕												2 時間 / 10a
培土												2 時間 / 10a
除草 (中期)												2 時間 / 10a
病害虫防除												1 時間 / 10a
収穫												2.5 時間 / 10a
乾燥												3 時間 / 10a

各作業項目の計画・予定時期を作成する
(作業項目は既存の項目のほかに追加が可能)

予定時期に合わせて、作業計画や実績を記録する(第三版で説明)

③

2026年 2027年

5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月

予定収穫・出荷量

150 kg/10a

120 kg/10a

農薬 +選択

作付の最終更新日時: 2025/10/08 農薬DBの最終更新日時: 2026/09/29

農薬名 使用基準

希釈倍率 200 (倍)

散布液量 100 (L/10a)

農薬使用量 500 (mL/10a)

収穫前日数 45 日前まで

本剤の使用回数 1 回以内

有効成分毎の農薬使用回数

ベンタゾン 2 回以内

農薬名 面積 使用計量

大豆① 92.45 a 0 mL (0 mL/10a)

合計 92.45a 0 mL (0 mL/10a)

農薬は農薬名さえ入力すれば登録情報に基づき、使用基準が登録される



大まかにはこれらの情報を入力して作付計画を完成させるんだよ！
作成した作付計画は、ほかのほ場や翌年度のほ場でも複製ができるよ！
最初は作成するのが大変だけどその後は複製を行い、ほ場特性や作業項目等に応じて細やかな修正を加えながら更新していこう！

今回はアグリノート(株)のアグリノートを参考に用いましたが、ほかにも作付計画機能がある営農管理システムはあります。それぞれ特徴があるので、自身の営農活動に即した営農管理システムを活用しましょう。